

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373700446		
法人名	有限会社 真殿製材所		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岡山県美作市北山1414		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは家庭的な雰囲気作りの一つとして介護職員が交代性により食事の提供を行っている、食材の購入も近所のスーパーへ買出しに行ったり、フアックスにて注文している、食材や日用品の購入に入所者も一緒にでかけることもあり、地域交流や外出の場を提供している。また有限会社が運営する単独施設であることから環境、設備面において迅速な対応が行え、近隣の介護サービス提供施設との交流もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆったりとした時間の流れの中で、家族のような日々を共に過ごす事を大切に職員同士がお互いに認め合い協力し合って支援しています。入居者の落ち着いた雰囲気と、にこやかに話す姿に、事業所のめざしているこれからの人生をゆっくりと歩んでほしいと願う「すまい」があります。現状における課題として外部研修を含め、介護業務の向上に取り組む姿勢が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、運営規程を重要事項説明書と共に自由に見ることができる場所に置いている。	理念にもあるように、毎日の入居者との関わりで寄り添うことで人間関係を深くし、信頼して貰えるように努めています。	理念はこの事業が何を目指しているのかを示しています。今一度職員全員で理念が目指すことを共有して日々の関わりに反映する事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入所者の重度化にともない日常的な交流が減ってきているが地域の「子供みこし」「亥の子」は毎年ホームに来てくれている	区長から年間の行事予定表を頂いており、小学校跡地の公園での運動会に参加し、入居者がその小学校に通っていたことも解り、事業所としてより一層地域との繋がりを深めていく様に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏のボランティアの受け入れを行い学生へ認知症介護についての説明や体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事などの報告だけでなく入所、退所の報告利用状況、待機状況も報告している、転倒などの事故報告も行い事故防止にも努めている。	地域の代表者や市の担当者、家族などと活動計画や意見、要望をテーマに話し合い災害時の取り組みや事故等について助言・意見交換を行いサービスの向上に活かしています。	これからも地域に必要なテーマを取り上げ、有意義な会議を継続していかれる事を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にはほぼ毎回出席して下さっている、運営に関する相談も行っている。	事業所だけで対応が困難な事案は相談し対応して貰ったり、アドバイスを受けて協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月に身体拘束についてのマニュアルを見直し作り直している、また職員会議、運営推進会議にてマニュアルを紹介している。	その人に合った方法で身体拘束しないケアに取り組んでいます。リスクと安全を会議で話し合い、一つの方法に絞らずその結果を職員全員で共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから職員間で虐待防止について心がけるとともに入所者に怪我、あざ等があれば原因を追究し事実確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入所者には後見人制度を利用しており日々の生活記録を確認してもらっている。また随時講習会や研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の変更等あれば家族に説明し同意書もらっている。入所前にも説明はしているが質問があれば随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口を記載し入所時に説明している、また日ごろから意見、要望があれば受け付けている。	運営推進会議や家族会などで意見、要望、助言など聞く機会を設けています。また、入居者の普段の様子を請求書と一緒に手紙を添えて送り、家族との距離を縮める様努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例で行っている職員会議にて意見を聞いている、また必要に応じて会議にて職員間で検討している。	ここ2年間退職者もなくまた、産休後復帰した職員もいます。日頃の会話の中から又、個人面談などで研修への参加、資格取得へ相談を受けるなど働き易い職場の環境づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の業務内容や悩みなどへの把握に努め評価している。また資格取得にも積極的に支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加へ積極的に支援している、また現場において学んだことを共有できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員協会、介護福祉士会などの参加について理解を得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接時に本人の生活歴、現在の様子を確認している、また入所当初においては職員が日課等の説明を行ったり本人の訴えを聴くようにしている。食事の席なども他の入所者との関係について配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所についての相談時に入所後の生活についての要望を聴くようにしている、毎月送付する請求書に日ごろの様子などお知らせする手紙を同封している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に今まで対応してきた事例などを具体的に説明しサービスの利用の継続または他のサービスへの移行についての可能性を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の料理など入所者に話をしたり、家事など共同作業をしながら関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとの衣類の入れ替えなど家族にして欲しいことをお願いし負担のない範囲で関わってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	以前に比べると少ないが入所前に利用していた美容院、お宮参りなど可能な範囲で行っている。	思い入れが強いお宮様へ参拝に時々出掛け、とても喜んでもらっています。また家族と一緒に馴染みの美容院に行く方もいます。又、入居者の孫が職員の子どもの先生だと分かり共通の話題が出来て楽しい会話に繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士の関係を観察しており食事の席の配置などを配慮している。また職員が中に入りコミュニケーションをとることにより関係づくりにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要時応じては次の施設への入所の相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションにより本人の生活歴や思いを聴きだせるよう努めている。困難な場合は家族から情報を頂いたり職員間で気づきを集めて共有している。	強い願望のある入居者の言葉を掘り下げ、意向に添う様支援し、本人の思いを発見することもある。コミュニケーションを大切にしながら意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供と入所後、本人や家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日課を基本に生活記録や職員の申し送りなどから変化を把握。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろから家族へホームでの様子を伝えるようにしている、職員会議の中でケアの様子、課題等を話し合い介護計画に反映するようにしている。	個々の残存機能の維持と自立支援を介護計画に盛り込み、本人への負担が課題となっています。日々の支援の中での気づき、申し送りなどを参考に計画の見直しを図る様取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中でケアの実践・結果も記録するようにしている、また気づきや工夫は日々の申し送りにて共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会、外出、外泊など家族の状況と希望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加する場合には挨拶やお祝いを手渡す役割を入所者に行ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の説明にて在宅時の主治医の継続と嘱託医への主治医の変更を選べるようにしている。定期的な往診があり、必要に応じての受診については家族と連絡をとりながら対応している。	週1回訪問看護を利用し日々の入居者の様子を伝え受診の際、医師との連携にも努めています。家族が付き添う時も基本職員が同行し、受診支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師の配置はないが週に一度近隣の訪問看護ステーション来所し健康チェックと相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族だけでなく病院に入院中の経過を確認したり訪問して様子をみたりしている。また退院時のADLの目標なども病院と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意向を確認しているが状況に応じて家族と話し合いも行っている。	医療ニーズが高くなった場合、又、急変時の看取りを行うための医師、看護師が整わないので自宅で看取るレベルの対応を行っています。病院との連携や処置が必要となった時、療養型の施設との連携は取れていて退所となった場合も次の場所へ繋げられる様になっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の災害マップを運営推進会議や職員会議にて確認、新人職員には火災通報装置の操作説明も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機と火災通報装置を連動する工事を行っている、防災訓練では防災設備の取り扱い説明を職員に実施。水害対策としてホーム北側にコンクリートの壁を作っている。	経営者の危機管理意識が高く、より安全な避難場所となるように取り組んでいます。避難訓練は夜間想定で入居者一人ひとりを実際に誘導してどれくらいの時間がかかるか実践し災害対策にも活かしています。	これからも事業所を中心に地域における防災対策を地域住民と行政とが協働して協力体制を築いていける事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人ひとりの生活歴、性格に合わせて声かけを行うようにしている。そのために家族から伺った若い頃のエピソードは職員間で共有するようにしている。	入居者と職員・ボランティア等対応時の距離感の大切さを話し合い、又言葉遣いも不快感のない様心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定できる方には入浴後の着替えを一緒に選んだり、誕生日等には好きな食べ物を聞いたりしている。日常的には好きな歌を聴いたり外で日光浴をしたい時には日光浴を実施したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や食事、入浴の時間など大きな流れはあるが居室で過ごす時間や家事の手伝い等は本人のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着なれた衣類等の身だしなみができるよう援助している、また職員が衣類の購入等を行う場合、可能な方は一緒にかけて衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったり旬な物を提供したり食べる楽しみを援助している。	メニューは入居者と一緒に考えたり、野菜の下ごしらえを一緒にしながら頂いた野菜や職員の自宅で出来た野菜などで料理の話しながら、それぞれの出来る事で食事の準備をし、楽しい食事への支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者に合わせて小盛りや大盛りを設定している、体調不良などで食事が摂りにくい場合には栄養補助食品にて捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施、週に一度はポリドントなどで義歯の洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の経験からトイレの介助のタイミングなどを変更をしている。排泄動作は自立しているが場所が分からない方には随時誘導を行っている。	排泄の方法や使用するパンツについて会議で根拠を示し話し合っています。また決まった方法でもこれで良かったのかという視点で検討してよりよい方法に気づくとすぐに共有し自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけに頼らずに水分補給、運動も促している、オリゴ糖の使用により便秘が改善された例もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の順番はあるが本人に入浴の希望を確認しながら変更する場合もある、限られた時間内ではあるが時間を前後することもある。	毎日の関わりの中で入居者一人ひとりの癖や習慣を把握し、気持ちよく入浴してもらえるようタイミングを図ったり、ゆず湯などで季節に合わせた入浴で楽しんでもらえる様支援しています。また、入浴を拒否する時は無理強いをせず本人の意向を受け入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて休息の時間を設けている、天気の良い日には布団を干したりシーツ交換を行っている、外の光が気になる方は遮光カーテンに変更している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし職員がいつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、テーブル拭きなどできることをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域や地区内の他事業所の行事などは家族にも案内を出し可能な方には家族の付き添いもお願いしている。一度に大勢の人数の外出ができないので少人数ずつ散歩や買い物に出かけている。	以前に比べると入居者の残存機能の低下や高齢により、戸外への外出は少なくなりましたが、中庭に出て散歩をして両ユニットの入居者同士が顔を合わせ、話をしたり、また家族が入居者と出掛けたり、いろいろな機会を捉え外出支援に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の所持は行っていないがお金を持つことで安心できる方には家族と相談し少量のお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	業務の時間によって不可能なこともあるが家族からの制限がなければ支援できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りつけなどを行っている。	自然の中にあるホームで開放感があり、居ながらにして季節感が味わえます。職員も一緒に入居者とゆったり過ごしている様子が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外のテーブルやベンチ等の設置により、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族に説明し馴染みの物や使いやすいものを用意してもらっている。配置については生活動作をみながら変更するようにしている。	入居当初色々持ち込んで自由に荷物を配置してもらっています。見守りの中でホームの生活に合わせた居室づくりから本人と家族に相談して持ち帰って貰うこともあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の動作に合わせてテーブルの配置や席の場所を決めていおり必要に応じて変更している。		